I 歌舞伎の誕生

1 風流の踊り、一世を風靡　〇〇八
2 ややこ踊、舞台に登場　〇一二
3 出雲のお国、アイドルとなる　〇一四
4 遊女たちの艶っぽい歌舞伎踊　〇一七
5 河原や盛り場の賑わい　〇二一
6 稚児・若衆たちの芸能　〇二四
7 女形の誕生　〇二八
8 島原狂言から続き狂言へ　〇三一

II 様式の形成——荒事とやつし芸

9 初代市川團十郎、荒事を始める　〇三四
10 藤十郎のやつし芸、京の文化を背景に　〇三八

11 狂言作者、自立を果たす　〇四一
12 所作事の成立　〇四三
13 『曽根崎心中』興行は大成功　〇四七
14 二代目團十郎、江戸の助六を創造　〇五〇
15 初代瀬川菊之丞、江戸に下る　〇五三
16 曽我狂言、江戸初春の吉例に　〇五六

Ⅲ 人形浄瑠璃との交流

17 劇場空間の確立　〇六〇
18 絵島生島事件、劇界をゆるがす　〇六二
19 『国性爺合戦』歌舞伎でもブーム　〇六五
20 難波の海老蔵、実事で認められる　〇六八
21 人形芝居の両座、しのぎを削る　〇七一
22 義太夫物、三都で競って上演　〇七四

23 どこもかしこも『忠臣蔵』ばかり　〇七七

Ⅳ　歌舞伎の発展と展開

24 若女方の長唄舞踊　〇八〇
25 近松半二と歌舞伎　〇八三
26 並木正三、大坂で活躍　〇八六
27 移動する劇場空間　〇八九
28 初代菊五郎の芸風と蕪村の俳諧　〇九二
29 四代目團十郎の修行講　〇九五
30 「実悪の世紀」の幕明く　〇九九
31 似顔絵・大首絵の流行　一〇二

Ⅴ　江戸歌舞伎の開花

32 江戸浄瑠璃の大流行　一〇六
33 五代目團十郎と大江戸の春　一〇八
34 中村仲蔵の新演出　一一二
35 桜田治助の天明時代　一一五
36 三日月おせん、大芝居のヒロインに　一一八
37 四代目団蔵の芝居が江戸で喜ばれた　一二一
38 初代並木五瓶、江戸に迎えられる　一二五
39 初代尾上松助、時代の先導者に　一二八
40 鶴屋南北と生世話　一三一
41 歌川派一門の絵師たち、大活躍　一三四
42 『東海道四谷怪談』初演される　一三七
43 変化舞踊の大流行　一四〇
44 大坂劇壇の隆盛——二代目嵐吉三郎と三代目中村歌右衛門　一四三
45 地芝居、諸国で流行　一四七

VI 転換期の歌舞伎と黙阿弥

46 七代目市川團十郎、歌舞伎十八番を公表　一五一
47 『勧進帳』初演される　一五四
48 江戸三座、猿若町に移転　一五八
49 瀬川如皐と四代目市川小団次　一六〇
50 八代目團十郎、その人気と自殺　一六三
51 歌舞伎と小説との交流　一六七
52 河竹黙阿弥が活躍した時代　一七二
53 九代目團十郎の活歴と肚芸　一七五
54 天覧劇と歌舞伎座創設　一七八

本文註・用語　一八二
歌舞伎関連年表　一八七
あとがき　一九三